

大峯奥駈道の里 下北山村

2004年、「紀伊山地の霊場と参詣道」は世界遺産に登録されました。中でも7世紀に活躍した修験道の祖・役行者が開いた「大峯奥駈道」は大峰山脈の稜線を踏破する修行の道として、今でも数多くの修行者や登山者たちから愛されています。下北山村には「大峯奥駈道」の心臓部ともいえる大峯一の秀峰「釈迦ヶ岳」を始め、蒼古の樹海に包まれた数々の霊峰及び奇しき霊蹟があり、それらは万人の心のオアシスと呼ぶにふさわしいところです。

世界遺産 前鬼



「前鬼のトチノキ巨樹群」
「小仲坊」から登山道を20分ほど上がると、道の左の潤れ沢にトチノキが立ち並んでいます。幹周りが10mを越す樹齢不詳の「霊木」もあり、奈良県指定天然記念物となっています。

前鬼山小仲坊(土日祝・連休営業)

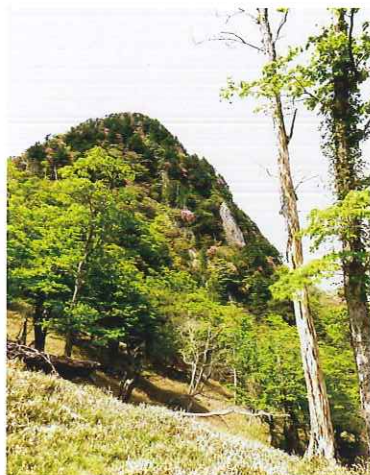
役行者の弟子夫婦「前鬼・後鬼」と5人の子供が暮らした修験の拠点。江戸時代までは五つの宿坊がありました。今は61代目当主の五鬼助義之さんが1300年の歴史を持つ「小仲坊」を守っています。

07468-5-2210(小仲坊現地)

072-834-1074(五鬼助義之さん宅)



世界遺産 大日岳 釈迦ヶ岳



「太古の辻」から仰ぐ「大日岳」

「釈迦ヶ岳」の北の「兩峯分け」を境に北を「金剛界」南を「胎蔵界」とみなしてきた大峰山脈において、「胎蔵界」のシンボルともいえる名峰です。30mの鎖場がありますが、危険なため巻き道を登ってください。



晩秋の「釈迦ヶ岳」(続日本百名山)

インドの「霊鷲山」が飛来したものと考えられてきた大峰山脈において、美しい山容を持つこの山は「釈迦入滅の地」すなわち「釈迦如来の住む他界」とみなされてきました。昇天前の役行者が最後に登り、数百もの神仙たちと共に行をした山だと伝えられています。

「二つ岩」
不動明王の眷属「矜羯羅童子」と「制多迦童子」であるとされる一対の岩塔。岩の間に立ち「釈迦ヶ岳」を遙拝しながら三度祈ると、願いが叶うと伝えられる古くからの「祈願所」です。



釈迦ヶ岳山頂に立つ釈迦如来像

前鬼・不動七重の滝

「前鬼・不動七重の滝」 (日本の滝百選)

今なお原始の趣を残す、大自然の中の名瀑。「森林浴歩道」の看板から谷底まで下り、吊橋を渡って河原を遡ると右手の岩場に急な階段がかけられています。それを900段登ると展望台があり、水飛沫と瀑音で人を圧倒する勇壮な大滝が目前に現れます。



河原の終点 七段目の滝

春はミツバツツジ、初夏はシャクナゲやカワツツジが清流のほとりで咲き競います。

明神池と池神社



役行者が鎮めた水神の龍

別の伝説では、池からゴウゴウと音が聞こえ水面が荒れ狂ったとき、役行者が三日三晩の祈禱で池の龍神を鎮めたといわれています。池に石を投げると雨が降るとされ、また御神木が建材に使われた大阪城が炎えたときは、御神木の梢の部分であった流木(浮木様)が現れ、池を七日七晩回り続けました。

笠捨峠の大蛇退治

笠捨峠に人を襲う大蛇がいると聞いた役行者が、峠に赴いて鉄の高下駄で踏みつけ錫杖で跳ね飛ばしたところ、胴体が明神池に落ちたとされています。



世界遺産 三重の滝



「千手の滝」(落差50m)

前鬼から片道一時間半の場所にある滝。この下に「不動の滝」(落差60m)が、右手の崖には役行者が作ったとされる「胎蔵界窟」があります。窟の上には絶壁の「裏行場」(ハイカーは不可)と「馬頭の滝」(落差45m)があり、あわせて「三重の滝」と呼ばれています。



「聖なる視場」 「垢離取場」

「三重の滝」に行く途中にある美しい淵。今も修験者たちはここに首まで浸かって禊を行います。2011年の台風で砂州が流されたため、膝まで水に入っている渡河が必要です。